

# 北陸石仏の会々報

第34号

平成21年5月1日発行

編集と発行

北陸石仏の会  
(日本石仏協会北陸支部)  
代表 北村市朗

〒939-1315  
富山県砺波市太田1770  
尾田武雄 方

電話 0763-32-2772  
振替 00740-2-11974

(年会費 3,000円)

## 横綱 阿武松(おうのまつ)の墓



西光寺の阿武松墓碑の記憶がよみがえり、内容を読んだ。「能登七見出身の第六代横綱阿武松(おうのまつ)……云々」という記事が書いてあった。全文は新聞を参照して欲しい。

第六代横綱とはすごいことではないかと思ひ資料をあさった。

最初に手持ちの昭和三年発行三木愛花著『江戸時代の角力』を見たところ「18章、歴代横綱力士傳」には三代阿武松緑之助と記している。

他の資料やネットなどは全て第六代阿武松としている。

更に資料を探ると初代明石志賀之助、二代丸山権太左衛門、三代綾川五郎次は経歴がはっきりしない、あらゆる文献が揃って証明されるといふ自論の三木愛花老が四代谷風梶之助を初代として、二代小野川喜三郎、三代阿武松緑之助と主張していたのであった。

富岡八幡宮の「横綱力士の碑」に第六代横綱阿武松と記されているのでこれを公式の歴代横綱とするのであろう。

「横綱力士の碑」は、明治二十八年三月、大相撲発祥の地の富岡八幡宮に募末の名力士十二代横綱陣幕久五郎が引退後中心となり、伊藤博文をはじめ政財界の名士の寄付を集めて、高さ三・五m、幅三m、厚さ一m、重さ二十二トンの巨碑を建設したものである。

昭和二十八年発行の相撲増刊『相撲事典』より阿武松緑之助の経歴を引用する。

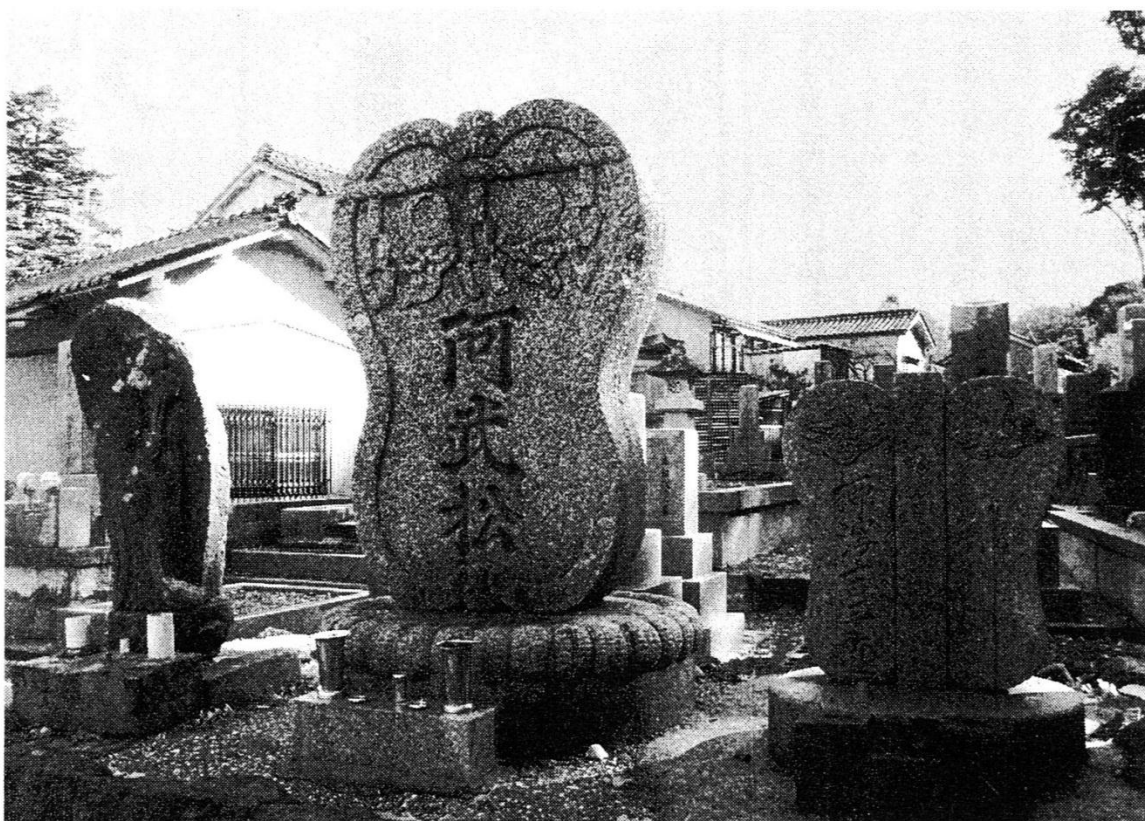
平成二十年十二月二日、会員滝本やすし氏の案内で能登七尾市小島町西光寺を訪ねた。西光寺は浄土宗の古寺で小島町「山ノ寺」寺院群の一つである。

この寺の山門前には徳本上人の名号塔があり、境内には祐天上人の名号塔があるということで、名号碑に関心を持って私にはぜひにも拝観したい寺であった。

徳本碑と祐天碑を見たあと恒例の墓地散策をしようと墓域の入口を見ると写真のような軍配を模した墓標が目に入った。

予備知識がなかったので草相撲の行事さんの墓だと思つて前面の写真を撮つただけで他へ移つた。

今年(平成二十一年年)二月二十一日の北陸中日新聞の投書欄で「阿武松の危機救つたものは」という見出しが目に入った。



第6代横綱 阿武松（おうのまつ）の墓 七尾市小島町 西光寺墓地

「能登の国鳳至郡七見村（今の能都町字七見）に生まれ、三十五歳のとき江戸に出、柳橋へんのさる蒔蕪屋に身を寄せた馬子の長吉、それが薦められて力士武隈に入門、爾来成績抜群で文政九年大関、同十一年二月、とうとう吉田司家から横綱の榮譽を許された。五尺七寸、三十六貫、前代小野川の引退以来、三十一年目の横綱で、少年時代馬方までした苦勞人、人物も練れていて、谷風が四十六歳、小野川は四十九歳で死去したのに六十一歳まで生きて大いに角道のため尽くしたという」

阿武松の碑は・江東区平野玉泉寺墓地・金沢市寺町立像寺境内・珠洲市勝因町（阿武松緑之助碑）、・七見五里地「横綱阿武松碑」・能都町七見阿武松生家佐々木家墓地などにあるという。

『能都町史』第五巻人物伝 横綱阿武松緑之助（桜井甚一）によると  
・軍配型の碑 花崗岩 高さ 118 cm、幅 80 cm、厚さ 26 cm

表面 阿武松

右側面 馬縹教意

背面 安政六年己未九月建立

左側面 大阪世話人 馬縹屋五三郎

台座 大阪長口（堀力）石工 井善

・写真右の軍配型小型の碑には「柳瀉吉三郎」と記してある。

花崗岩 高さ 62 cm

表面左 柳瀉吉三郎

左側面 明治十二年四月九日

柳瀉は七尾の料亭柳屋の出で、江戸に出て阿武松の弟子となった力士であると伝えられている。

阿武松の資料は昭和六十三年発行江東区広報課編集『史跡をたずねて』、昭和五十六年発行田中喜男著『加賀能登史跡の散歩』にもある。

二〇〇九・三・二九

平井一雄

# 北陸石仏の会 第37回例会報告

## — 参加者 —

滝本やすし	池田紀子	大澤晴美	源田 孝
平井一雄	宮本武征	安井豊明	本木清人
片山厚子	猪谷みつ子	中川 達	柳沢栄司



## お知らせ

- ・北國新聞平成21年2月22日付に滝本靖士当会理事「埋もれた偉人江戸-明治期の僧 光導に光を 功績、逸話を調査」の記事が載りました。
- ・尾田武雄理事の『とやまの石仏たち』好評に発売されています。書店などでお求めください。

## 富山市薄島の馬頭観音石仏調査報告書

富山市薄島(八尾町) H19・12・26 001

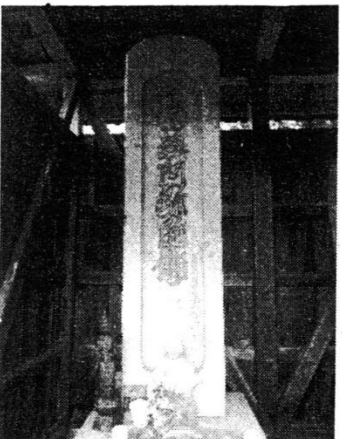
- 一、尊名 馬頭観音
- 二、所在地 富山市薄島バス停横
- 三、法量 高さ35cm 幅20cm 厚さ9cm
- 四、姿態 坐像
- 五、技法 浮彫り
- 六、石材 緑色凝灰岩  
(グリーンタフ・金屋石)
- 七、管理者 鈴木義明
- 八、銘文 無し
- 九、祭日
- 一〇、造立の意図
- 一一、調査日 平成19年12月25日

## 所感

- ・逆立つ頭部に馬の頭を浮彫りにし、三面八臂像である。両手で印契を結び他の六手で各持ち物を持つ。いわゆる馬頭観音は他の慈悲相であるのに対し、憤怒の形相が本来の造像であるがここにある馬頭観音は三面ともに優しいお顔つきである。
- ・丸みを持った舟形光背で、このようなスタイルは砺波地方の庄川町金屋や井波の石工が得意とするものである。
- ・石材は一見笏谷石(越前石)のような、上品な青みをおびたものであるが、庄川町金屋から採掘された良質の金屋石であると思われる。
- ・優しい顔つき、丸みをおびた舟形光背、青みをおびた緑色凝灰岩の金屋石製等を考えると、砺波地方の製作と思われる。またやや小振りであることも、遠い砺波で造られ、ここに安置されたものと思われる。
- ・馬頭観音の造像は、具内では多くなく、動物の供養として建てられたものと思われる。
- ・この石仏の造立は、彫法などからおおよそ幕末期から明治期であろうと思われる。(尾田武雄)







北陸石仏の会 第38回例会案内  
**七尾市の石仏めぐり**  
 平成21年5月24日(日)

案内 滝本やすし(金沢市)  
 参加費 5000円  
 申込先 次の事項を記入の上ハガキでご連絡ください  
 住所・氏名・電話番号(ケイタイ)・集合場所  
 申込先 939-1315 富山県砺波市太田1770  
 北陸石仏の会事務局 尾田武雄方  
 集合場所 金沢駅西口 午前8時20分  
 大沢野文館会館 午前7時30分  
 砺波駅南 午前8時30分  
 締め切り 平成21年5月20日

- ◎七尾市中島町奥吉田 大覚寺/北国八十八ヶ所霊場石仏《大正時代》
- ◎七尾市中島町町屋 路傍/名号塔《南北朝時代》
- ◎七尾市能登島閨町 閨観音堂/中世石塔群《室町時代》
- ◎七尾市小島町 西光寺/地藏、祐天名号塔、徳本名号塔、横綱「阿武松」碑《江戸時代中期、後期》
- ◎七尾市小島町 山の寺寺院群/妙観院から常通寺までの石仏散策……  
 如来形坐像、観音石仏群、「牛追善塔」(牛塚)、六地藏、「青面金剛」  
 (庚申)、不動明王、五輪塔所刻板碑、宝篋印塔(前田利家、利長供養  
 塔)、祐天名号塔、徳本名号塔、光導名号塔など  
 (写真の寝釈迦は大覚寺/北国八十八ヶ所霊場石仏です)  
 諸事情により見学地を変更する場合があります。



※平成21年度会費を同封の振替用紙にてお納め下さい。年会費 3,000円